

葛城

連吟

西野翠舟  
赤井きよ子  
前田飛南子  
渡邊瑞子

邯鄲

能

上野朝彦  
武富康之  
齊藤信隆  
田口亮二

実盛

実盛の老人 上野雄三

從僧喜多雅人  
遊行上人 福王知登  
從僧 廣谷和夫

大鼓 上野義雄  
太鼓 上田 悟  
小鼓 久田舜一郎  
笛 野口 亮

間

里人 善竹隆平

後見

赤松禎友  
大槻文藏

地謡

篠崎珠樹 野村昌司  
伊原 昇 上田貴弘  
大槻裕一 藤井完治  
田口亮二 梅若猶義

休憩 20分

狂言

棒縛

次郎冠者 善竹彌五郎

主 上西良介  
太郎冠者 善竹隆平

後見 小西玲央

能

砧

侍女夕霧 上野朝彦  
芦屋某ノ妻 上野朝義  
妻ノ亡霊

芦屋某 福王茂十郎  
太刀持 喜多雅人

大鼓 山本哲也  
小鼓 清水皓祐

笛 赤井啓三

間

下人 善竹隆司

後見

野村昌司  
梅若猶義

地謡

三浦信夫 赤松禎友  
大槻裕一 上田貴弘  
上野雄介 大槻文藏  
武富康之 齊藤信隆

附祝言

終了予定午後5時過ぎ

能 実盛 (さねもり)

諸国を行脚している遊行上人(ワキ)は、加賀国篠原で説法をしていると、毎日、一人の老人がやって来て上人と会話していたのだが、その姿は上人以外には見えず、他の人々からは上人の独り言のように見え、不審に思われていた。今日もその老人(前シテ)がやって来たので、上人は老人に名を尋ねるが、老人はなかなか答えようとしなない。老人は、かつてこの地の(篠原)合戦で木曾義仲軍に討たれた平家方の武将・齋藤別当実盛の亡霊であることを明かし、姿を消す。

ハ中入V

夜、上人が池で念仏を唱えていると、上人の前に錦の直垂を身にまとった実盛の幽霊(後シテ)が現れ、髪を黒く染めて出陣したこと、最期の戦に臨んで錦の直垂を平宗盛から賜ったこと、手塚太郎と死闘の末に討ち取られたことなどを語り、最後には上人に弔いを懇願して消えていく。

能 砧 (きぬた)

九州芦屋のある男(ワキ)は訴訟のため妻を残し京に上るが今年で三年も過ぎ、さすがに故郷の事が気にかかり侍女・夕霧(ツレ)を使いに出す。三年の空闊の寂しさをなげく妻(前シテ)であったが、華やかな都の水に洗われた夕霧を羨む気持ちは隠しきれず、心波立つ。妻は砧の音に愛とらみを織り込み、都の夫への思いを届ける。しかしこの秋も帰国できぬ事を告げられ、絶望のあまり病床に伏し、亡くなってしまふ。

ハ中入V

ようやく故郷へ帰ってきた夫は妻の死を悲しみ、梓の呪法を行うと、あの世から成仏できずに苦しむ妻の霊(後シテ)が現れ、夫の不実や忘れぬ愛の恨みをなげき訴えるが最後には成仏の道がひらける。本公演における写真撮影・テープ録音・携帯電話等での撮影・録音は、著作権・肖像権に抵触しますのでご遠慮いただきますようお願いいたします。公演中は携帯電話の電源をお切り下さい。



上野朝義  
シテ方親世流職分  
昭和24年生まれ  
職分故上野朝太郎長男  
親世流25世宗家故親世左近、  
親世流職分故野村幻雪に師事  
日本能楽会会員  
大阪親世会常務理事  
能楽協会大阪支部副支部長  
上野松嶋会定期能主催  
正陽会を主宰



上野雄三  
シテ方親世流準職分  
昭和31年生まれ  
職分故上野朝太郎三男  
親世流職分故野村幻雪に師事、  
現在親世流職分大槻文藏に  
師事  
日本能楽会会員  
上野松嶋会定期能主催  
正陽会を主宰

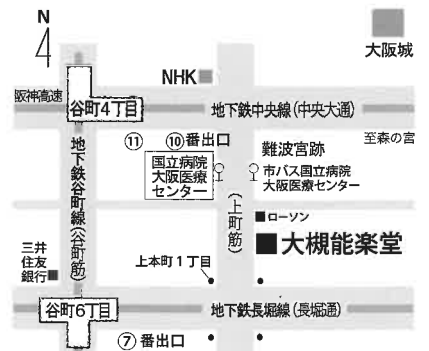


上野雄介  
シテ方親世流  
平成2年2月生まれ  
準職分上野雄三長男  
親世流職分故野村幻雪  
師に師事



上野朝彦  
シテ方親世流  
平成1年8月生まれ  
職分上野朝義長男  
親世流職分故野村幻雪  
師に師事

正陽会  
上野朝義、雄三兄弟が  
主催する会で、毎年1  
回開催。  
朝義の長男・朝彦、雄  
三の長男・雄介も交え、  
それぞれの研鑽の場と  
している。



大槻能楽堂 06-6761-8055

大阪市中央区上町A番7号

地下鉄 谷町4丁目⑩番出口 / 谷町6丁目⑦番出口  
市バス 国立病院大阪医療センター